

令和3年度(2021年度)  
京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験  
西洋音楽史

以下の4つの語群から最低2つずつ、合計10となるように選択し、簡潔に説明しなさい。人物名や音楽作品名を選んだ場合は、西洋音楽史上の重要性についても触れること。解答用紙には、選んだ語群のアルファベットと番号を記すこと。

語群 A

1. グレゴリオ聖歌
2. ノートルダム楽派
3. フィリップ・ド・ヴィトリ
4. モテット
5. ジョスカン・デプレ
6. マドリガル (マドリガーレ)

語群 B

7. トラジェディ・リリック
8. アルカンジェロ・コレッリ
9. 組曲
10. カンタータ
11. ブフォン論争
12. ヨーゼフ・ハイドン

語群 C

13. ビーダーマイヤー
14. 《幻想交響曲》
15. フランツ・リスト
16. 《トリスタンとイゾルデ》
17. 国民楽派
18. クロード・ドビュッシー

語群 D

19. 十二音技法
20. オリヴィエ・メシアン
21. 《ラプソディー・イン・ブルー》
22. プリペアード・ピアノ
23. 《4分33秒》
24. ヘルムート・ラッヘンマン

令和3年度(2021年度)

京都市立芸術大学大学院音楽研究科(修士課程) 入学試験問題

共通科目試験 日本音楽史

1. 次の文の(ア)から(ノ)に当てはまる語を、次頁の語群から選んで答えなさい。

- (1) 明治維新による社会の変化は、雅楽、能楽、平家(平曲)、地歌、箏曲、尺八などの種目の活動基盤を脅かした。能楽は、徳川幕府の(ア)として保護されていたが、維新直後は演能もほとんど行われず、廃業する者が続出した。1871年の(イ)の解体と(ウ)宗の廃止は、(エ)、地歌、箏曲、尺八の分野に大変革をもたらした。

(イ)は、盲人の特権的職能団体で、ここに属した(エ)、(オ)、(カ)の演奏家たちは、教授を独占する権利を認められていた。普化宗は(キ)宗の一派で、(ク)を吹く虚無僧が属し、托鉢によって得る布施で生活を保持していた。それらの基盤は失われ存続も危ぶまれたが、広く一般に開放することによって存続の道が切り開かれた。

とりわけ(ク)における、宗教音楽から(ケ)音楽への変身は目覚ましく、1896年に(コ)で生まれた(サ)流は、近代的(シ)制度を確立して、その後の邦楽界の範となった。(エ)は一般の需要が少なく、近代化に乗り遅れたかたちで衰退に向かう。

これらとは対照的に、長唄、(ス)、(セ)などの、主に(ソ)で行われた三味線音楽は、明治になってむしろ円熟を増し、今もよく演奏される曲が、この期にも数多く生まれた。

- (2) 江戸時代以降、日本で最も多くの人々に親しまれたと考えられる弦楽器は、(タ)本の弦を張った箏と、(チ)本の弦を張った(ツ)である。

(ツ)は、日本の代表的演劇である歌舞伎と(テ)に欠かせない楽器としても発達し、細棹を用い歌舞伎の《勧進帳》等で演奏される(ト)、太棹を用い大阪で生まれた(ス)、中棹を用い歌舞伎で演奏される(セ)など、様々な種目において今なお重用されている。

日本の管楽器に目を向けると、中国系の左舞に用いられる(ナ)では、箏、(ニ)、(ヌ)を用い、朝鮮半島系の右舞に用いられる(ネ)では箏、高麗笛、(ヌ)を用いる。催馬楽では、箏、(ニ)、(ヌ)のほか、(ノ)を用いる。

### 【語群】

雅楽、伎楽、唐楽、高麗楽、催馬楽、太神楽、能楽、式楽、礼楽、舞楽  
声明、人形浄瑠璃、長唄、箏曲、地歌、端唄、うた沢、義太夫節、常磐津節、新内節、  
源氏、平家、真言、法華、禪、普化、都山、継山、琴古、山田、生田、  
笙、龍笛、明笛、篠笛、神楽笛、尺八、法螺貝、琵琶、三味線、胡弓、  
家元、組合、法人、当道職屋敷、組屋敷、宮廷、劇場、寄席、屋外、家庭、  
京都、大阪、名古屋、福岡、3、5、7、13、17

2. 次の語句の中から、3つを選び、それぞれについて、内容や特徴を簡潔に説明しなさい。「○○と○○」のように記した語句は、2つの語を関連づけて説明すること。《 》で囲んだ語は演目名で、複数のジャンルに存在する曲名の場合、ジャンルの選択や記述方法は任意とする。

龍笛と笙、林邑楽、音取り、夢幻能、四拍子、能管、箏と琴、胡弓、三味線の原材料、  
尺八と一節切、検校と座頭、柳川三味線、野川流、豊後節系浄瑠璃、黒御簾音楽、  
三曲、浪花節、追分様式、骸骨理論、民謡音階、ヘテロフォニー、唱歌（しょうが）、  
勘所、掛け声、世阿弥、生田検校、竹本義太夫

《越天楽》、《六段の調》、《那須与一》、《八島（屋島）》、《紅葉狩》、  
《道成寺》、《羽衣》、《野狐三次》

3. 日本音楽史にみられる新しい伝統の創出・模索について、具体的な事例を交えて論じなさい。テーマは自由だが、以下にあげた語の中から、一つ、あるいは二つ以上を使用すること。

雅楽、能楽、狂言、歌舞伎、文楽、新日本音楽、大和楽、  
説経節、うかれ節、民謡、演歌、新作能、超歌舞伎、  
箏篋、筑前琵琶、十七弦箏、太棹三味線、オークラウロ、玲琴、大正琴、  
邦楽調査掛、五線譜、三味線文化譜、杵屋正邦、廣瀬量平